



共生の時代

'09
6月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



コミュニティサロンありす倶楽部代表

西 眞弓 さん

25 年前、西さんは長崎市郊外にある、できたばかりの住宅団地に引っ越してきた。それまで住んでいた場所は子ども文庫、子ども劇場、生協活動...と、地域活動が活発だった。それが当たり前と思っていたが、そこにはそうした文化活動はまだなく、自分で作ることにした。周りに声をかけ、子どもがいつしよに育つ場所作り、家族のための安全な食べものを得るための活動など身近なことから少しずつ広がっていった。「忙しかったけど特別なことをしているという感じはありませんでしたね。家庭の延長線上の活動だったから」と西さんはあくまで自然体だ。たすけあいワーカーズにかかわったのは10年前、設立準備の頃だった。西さんは家人が誰もいない時に急病になった。その時助けてくれた友人が言った「こんな時にたすけあいワーカーズがあるといい

でしょ、その言葉が響いた。それまで誘われても断っていた西さんだが、「これは必要だ」と思うや否や何の抵抗もなくワーカーズに入った。友人は初代代表、西さんは2代目を引き受けた。その後、ワーカーズの仕事を減らし立ち上げたありす倶楽部は、地域の人がたが趣味の講座などをおして、のんびり集う場をめざしている。これからはそういう場所が自分もほしいなと思うからだ。

西さんはどこに行ってもごはん作りをする。ワーカーズでも地域のサークルでも身近な材料でひと工夫の料理をさつと作る。新しいレシピが次々に頭に浮かび、それをすぐにそうな料理とその手際のおいしにそこに居合わせた人はびっくり!それをみんなといっしょに楽しく食べる。「家族のためのごはん作りの延長です。おいしそうに食べるみんなの顔を見るのがいちばん幸せを

感じる時」と西さんはにっこり微笑む。西さんの生活の一部となっているのは、長く続けてきた教会のボランティア活動だ。教会にある「なかよし教室」は、障がいのある子どもたちと親が集い、就園前のケアをする場となっている。そこでもおいしい料理を作る。育児で疲れた母親たちの「心の実家」となっている。また、教会ではバザー用の手芸品作りも覚えた。それはいつのまにか楽しい日常になった。はぎれでエプロンや布バッグなどを作りバザーに出すと、思った以上に喜ばれ、それがワーカーズの収益になった。今では周りに教えるがらいつしよに作ったり、仲間と展示会をしたり。「ものづくり」の喜びは尽きることがない。

今一番したいことは、「ゆつたり縫い物をする」ことかな。これまでくるくる動いてきたから」と言いながらも、西さんの「ものづくり」は続く。

プロフィール

1948年福岡県大牟田市生まれ。グリーンコープ生協(長崎)で初めての「たすけあいワーカーズ」ありす(現kiki)の2代目代表を経て、2008年9月20日、「コミュニティサロンありす倶楽部」を立ち上げた。3人の子どもの10年前に独立、夫と母の3人暮らし。長崎市在住。グリーンコープ生協(長崎)組合員

「ものづくり」が楽しくて・・・

今年も米沢郷から
サクランボが届きます



3 面に関連記事

Contents

- ホームレス問題を考える 3
- グリーンコープはホームレス自立支援に取り組みます 2
- うちのメーカー・うちの生産者 ㊤
- 米沢郷牧場 サクランボ 3
- 2009年度シャボン玉月間に向けて
- グリーンコープはこれからもずっとせっけん 4・5
- ～グリーンコープのこだわり再発見～
- グリーンコープ商品生産・製造認証システムから見た「安心・安全」 6
- グリーンコープは適切に値上げした商品を適切に値下げします 7

目まぐるしく過ぎた20周年の昨年は、さまざまな出会いをもたらした。最も心に残ったのは国際会議で出会った方たち、とりわけ、くまもとでも交流したパレスチナの人たちだ。生きる糧であるオリーブの木を切られ、土地を奪われ...と、今の自分の生活がどんなに恵まれているか考えさせられた交流だった。その後、イスラエルによるパレスチナへの砲撃のニュースが流れた。交流し

送 信

「人たちは」安全な地区にいますから大丈夫です」と聞くまでは彼らの顔が浮かび、心配した。今の日本は砲撃こそないものの、急激に社会状況が逼迫し、路上死、自殺、虐待など、いろいろな形で尊厳生命が失われている。皆でたすけあう社会の実現に向かわなければ!と、気持ちを新たに今日の頃である。

グリーンコープ生協くまもと理事長
久米田 薫



自立支援センター内に張り出している求人票を見る

グリーンコープは ホームレス自立支援に 取り組めます

ホームレス問題を考える 3

ホームレス問題は解決できます

世界的な金融不安により、2009年3月までに失職した非正規社員は、約40万人とされています。実際に職を失い路上生活をせざるを得ない人たちが激増しています。このような状況を受けて、グリーンコープの生活再生事業から社会福祉法人グリーンコープに、生活困窮者のための一時的な避難施設を確保できないかという要請があがってきています。

この問題は、私たちの隣人の問題、そして私たち自身の問題と捉える必要があります。グリーンコープはホームレス自立支援に取り組めます。



模擬面接を受ける



自立支援プログラムの一環であるセミナーを受講する

2004年9月、北九州市によるホームレス者への自立支援センターが開設されました。その結果支援は急速にすすみました。当初は約500人だったホームレス者が現在は180人に減少し、650人以上がアパートでの自立生活をはじめ社会へ復帰しています。こうした自立継続率の高さにおいても、また一旦自立したホームレス者が再びホームレスに戻ってしまう、離職後野宿率の低さにおいても北九州市の取り組みは全国的に群を抜いており、高く評価されています。このことは20年にわたるNPO法人北九州ホームレス支援機構の長年の心を傾けた取り組みがベースにあるのは言うまでもありません。

福岡県の2大都市の一つである北九州市で画期的な成果があがっている一方で、もう一つの都市・福岡市の支援は「手付かず」といってよい状況です。現在福岡市のホームレス人口は1000人を超えていると言われています。

「抱樸館福岡」を開設します

1988年にはじまったNPO法人北九州ホームレス支援機構の取り組みは、この20年間にさまざまな困難に直面してきました。中でもニンビー運動（Not my back yard・ホームレス支援には賛成するが私たちの地域に支援施設を建てないで！）に対しては、実際に支援の成果をあげ、地域に納得してもらうまで時間をかけるしかありませんでした。

「抱樸館福岡」開設はNPO法人北九州ホームレス支援機構との共同です

「抱樸館福岡」は社会福祉法人グリーンコープが主体となり、長年にわたってホームレス者の支援を続けてきたNPO法人北九州ホームレス支援機構と共同です。

「抱樸館福岡」の開設はほんの小さな光明です。しかし困難な社会状況を考える時、このほのかな光がホームレス問題を解決し、さらに「たすけあう」地域社会の創造へつながるような大きなうねりを創り出す光となっていくます。

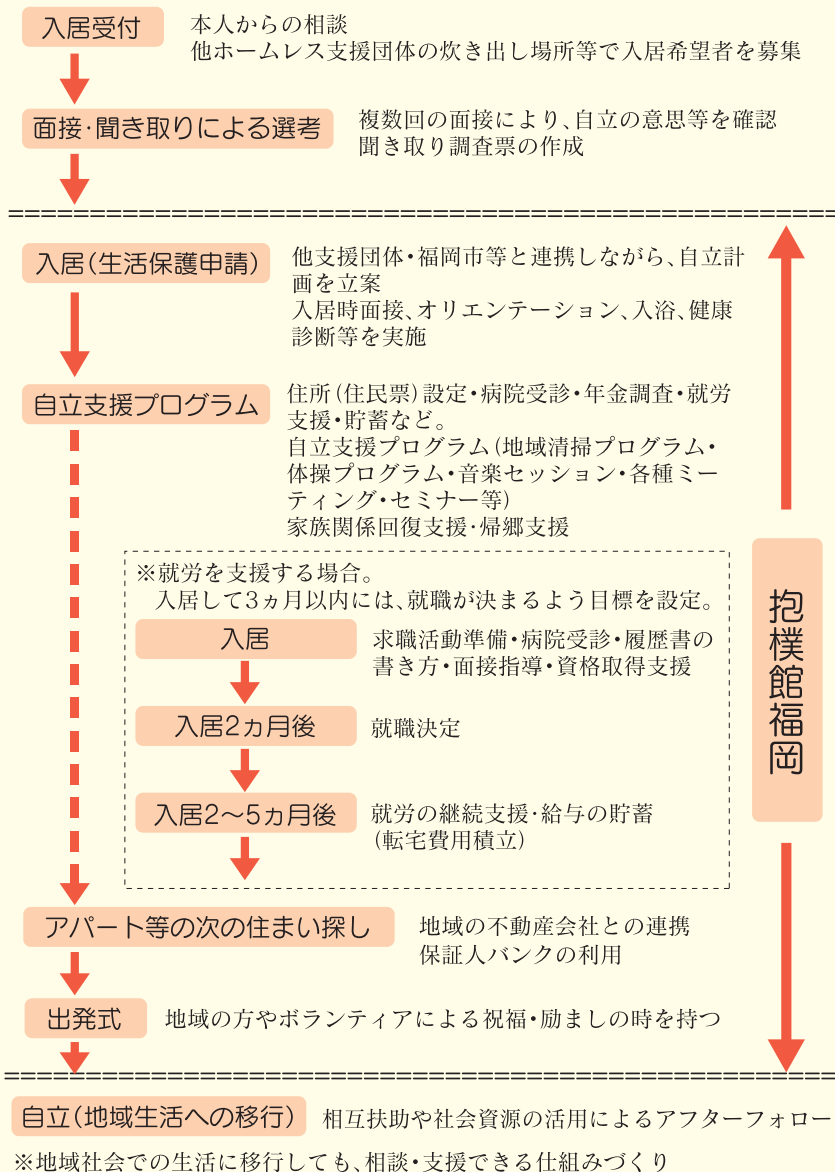
「抱樸館福岡」事業内容

いのちの危険にさらされている生活困窮者、ホームレスの人々に対して、あらゆる相談を受け付け、住居を提供し、就職や福祉手続きなどの自立支援を行います。

「抱樸館福岡」はホームレス者の自立支援施設ですが、「就職し自立生活に復帰する意思のある人」を対象にします。

その事業資金については生協本体の共同購入事業や店舗事業の収益金は使いません。

—入居から自立までの流れ—



福岡市のホームレス人口は1000人を超えていると言われています。今やホームレスの問題は、誰もがその危機に直面しかねない状況となつています。同時に、NPO法人北九州ホームレス支援機構の取り組みに見られるように、「本人の自立への意思と努力、それを支える仕組みがあれば、誰もが立ち直れることを示しています。人が人として安心して生き続けていくことができる「セーフティネット」の仕組み作りがあることで、多くのホームレス者が自立

の機会を得ることができるようになります。その仕組み作りを急がねばなりません。

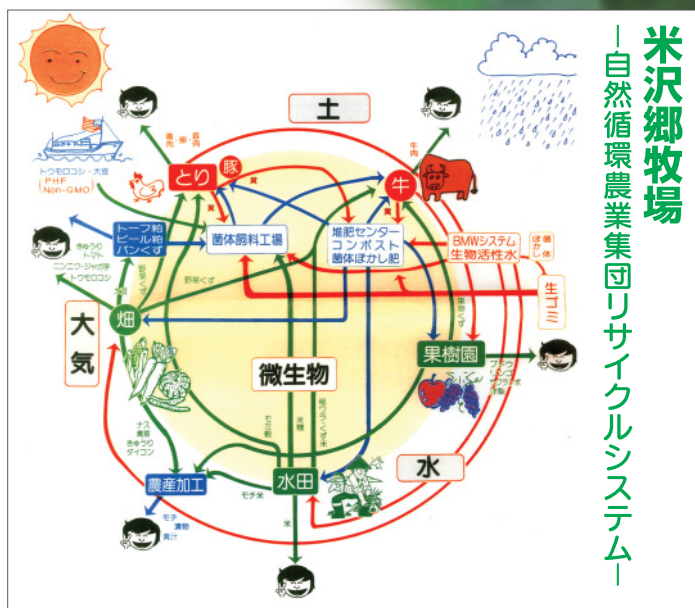
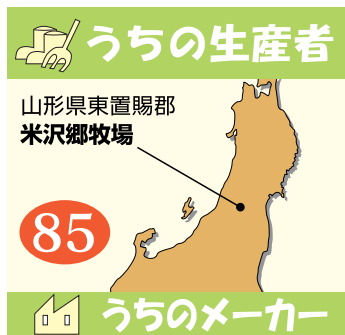
「抱樸館福岡」を開設します

1988年にはじまったNPO法人北九州ホームレス支援機構の取り組みは、この20年間にさまざまな困難に直面してきました。中でもニンビー運動（Not my back yard・ホームレス支援には賛成するが私たちの地域に支援施設を建てないで！）に対しては、実際に支援の成果をあげ、地域に納得してもらうまで時間をかけるしかありませんでした。

「抱樸館福岡」開設はNPO法人北九州ホームレス支援機構との共同です

「抱樸館福岡」は社会福祉法人グリーンコープが主体となり、長年にわたってホームレス者の支援を続けてきたNPO法人北九州ホームレス支援機構と共同です。

「抱樸館福岡」の開設はほんの小さな光明です。しかし困難な社会状況を考える時、このほのかな光がホームレス問題を解決し、さらに「たすけあう」地域社会の創造へつながるような大きなうねりを創り出す光となっていくます。



サクランボの生産者 左から上村貞義さん、横山裕一さん、佐藤祐一さん

サクランボ畑には、4月中旬ソメイヨシノ開花に少し遅れて白い花が咲く。それに合わせて生産者はミツバチの巣箱を園地に設置する。サクランボは他家受粉をする作物であり、また1品種だけの自家受粉はしないため、ミツバチを使って異品種の花粉を受粉させる。従って、どの畑にも品種の違う木が2種以上、例えば佐藤錦の中にナポレオンや紅秀峰というサクランボの木が植えられている。

「ミツバチと人間の共同作業でサクランボは見事な実をつけるんですよ」と横山さんはミツバチの巣箱を愛おしそうに覗き見る。「かつては人の手で行っていた授粉を、ミツバチに任せることで生産者の負担も軽くなり、市場でもサクランボが回るようになりました」。米沢郷農場事務局の浅野さんは栽培技術が向上してきた結果だと話す。しかし、「4月下旬に花が咲き、ミツバチが飛び交う時期に気温が急に下がってしまうと、ミツバチが巣の中に籠ったまま出てきません。受粉できないまま花が散ったら結実しません」と上村さんと横山さんは口を揃えて近年の異常気象を危惧する。作物はみなそうだが、サクランボもまさに自然からの贈りものなのだ。

米沢郷農場には大切にしている3つの柱がある。①有畜複合経営(有機農業)で農民の自立をめざす②産直を基本とし消費者(団体)と連帯する③自然循環農業集団リサイクルシステムを完成させる これらは苦難の道をものとせず、豪放磊落に独自性を持っている。



反を機に田んぼで250頭の牛の放牧をはじめた。農協の指導による畜産は成功したかに見えたが、1973年第1次オイルショックの影響を受けて牛肉の出荷価格が暴落。畜産に転向した農家はその煽りを受け苦しんだ。にもかかわらず市場価格は低下していかないという矛盾に気が付き、幸吉さんは直接消費者に販売するという行動に出た。しかも地元だけでは埒が明かす藁にもすがらる思いで東京まで足を延ばした。その時の大きな販路となったのが生協だった。そして、それが米沢郷農場設立(1978年)のきっかけ

となった。グリーンコープとの出会いもその頃。幸吉さんはグリーンコープの前身生協である、共生社の行岡専務とちくれんの故兼重専務とも出会った。そして、グリーンコープとは1994年に、米から取り引きがスタートした。米沢郷農場は消費者団体と連帯することで、せっけん運動やBMW技術にも出会った。それを農業経営に組み込み、農業者集団として自立していた。

現在、米沢郷農場からグリーンコープに届けられる農産物は、産直米とサクランボ、ラ・フランス、丸もち(正月用)。サクランボ生産者は6人。その一人佐藤さんは、米やりんごなど他の作物を栽培しながら、20アール以上もあるサクランボ畑の樹齢40年の老木や植樹したばかりの若木を大切に育てている。サクランボなど果樹栽培にとって一

番大事なのは「土づくり」という。米沢郷農場では土に農業・化学肥料は一切使わない。土の中にいる微生物のバランスを崩してしまうからだ。それも畑ごとに違うため、生産者はそれぞれに自分の土地に合った土づくりをしている。夏になれば下草刈りは日常の仕事だ。木を守るための最低限の殺菌や防除は欠かせない。「木は生きているんですよ。その声を聞いて余計なことはせず、その時に必要な処置をするだけです」と自然に逆らわずにサクランボ栽培をしている。

模索してきた初代代表故伊藤幸吉さんが創り上げたものだ。「父が遺したものに僕らの世代のアイデアやエネルギーを吹き込んで新しい形の農業を創り出したい。自給率をアップするためには、農民が農業で食べていけるようにならないければ」と言うのは幸吉さんが倒れた後、2006年から米沢郷農場の代表になった長男幸蔵さんだ。1995年、幸蔵さんは米沢郷農場のメンバーを含んだ地域の若い農業者集団「ファーマーズクラブ赤とんぼ」という別組織を立ち上げた。2000年には農業生産者として初めて「ISO14001」を取得。環境を守るという視点から農業を考えてきた。米沢郷農場と「ファーマーズクラブ赤とんぼ」は一心同体、農業の活性化にアグレッシブに挑む。

グリーンコープのサクランボの産地は2つ。今年もそこから真っ赤なサクランボが届けられます。産地の一つである「米沢郷農場」は、地域に根ざした体系的な有畜複合農業を実践しているグリーンコープの産直生産者グループです。米沢郷牧場の農業に対する姿勢を取材し、初夏の風物詩サクランボに迫ります。

最 上川の上流に位置し、朝日連峰、奥羽山脈などの高い山々に囲まれた置賜盆地の一角にある高畠町。この地域は山から流れ込む伏流水を利用して多角的な農業が営まれてきた。平地では水田、斜面を利用してブドウやリンゴ、ラ・フランス、サクランボなどの果樹栽培が行われている。かつては畜産ベルト地帯として大規模畜産が奨励・推進されたところだった。

生協との出会いによって農業の活路を見出した 米沢郷農場を興した故伊藤幸吉さんは、1971年の減

真っ赤な果実は自然からの贈りもの

サクランボ栽培の一年

3月	枝の剪定	
4月	開花 ネズミやもぐらの駆除 ミツバチの巣箱設置 雨や鳥から実を守るための対策	
5月	授粉	
6月	摘果	
7月	収穫 お礼肥 (有機肥料を撒く) 独自に土壌分析を行い、それによって施肥の判断をする枝の剪定	
8月	施肥(有機肥料を撒く)	
9月		

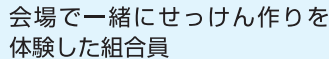
とせつけん

また、5月16～17日には「シャボン玉フォーラムin北海道」が開催されました。学習会内容とフォーラムのようすを報告します。

2009年度
せつけん学習会

せつけんをよく知って
自然にやさしいくらし

—せつげんと化学物質と環境—



PRTR制度（化学物質排出移動量届出制度）は、有害な化学物質が環境に与える影響を事業者が自主的に未然に防止することを目的としています。有害な化学物質の発生源、環境中に排出された量、廃棄物等で事業所などから運び出された量を事業者自らが把握し、行政機関に年1回届けます。行政機関はそれを公表し、市民はその情報を得ることができるとしています。

2008年度に健康・環境に有害と指定された化学物質は、562物質。その中の水生環境に有害な物質として、合成界面活性剤の10物質が指定されています。代表的なものには、ポリ

2009
シャボン玉
フォーラム
in北海道
5月16・17日

大地をめぐる水

＜1日目 全体会＞
開会式
オープニングコーラス
石けん利用伸張率優秀
団体表彰
第1部 基調講演「大地をめぐる水」
第2部 トークセッション
「未来へつなぐ私たちの選択」

＜2日目 分科会＞
第1分科会「楽しくなくっちゃイヤ～石けんを使う人を増やすために～」
第2分科会「石けん使用応援講座～石けんで暮らすために～」
第3分科会「海を育む森づくり～石けん運動の原点をフィールドワーク～」
第4分科会「大地と水を化学物質汚染から守る～化学物質政策基本法の必要性～」
第5分科会「地域でつくる私たちの水循環」
第6分科会「川でつておもしろい」

2日間に渡るフォーラムで、グローバルな視点と身近な視点で環境問題をとらえ、一人ひとりの行動が大きな運動をつくりだすことの大切さを改めて考える機会となりました。また皆で思いを共有する場ともなりました。

石けん利用伸張率優秀団体表彰で、グリーンコープでは、ひろしま・とっとり（島根）・やまぐち・ふくおか・さが（長崎）・くまもと・みやざき・かごしまの各生協とグリーンコープ共同体が受賞しました。

(北海道大学大学院
地球環境科学研究所 教授)

しかし北海道ではアイヌの人々が守ってきた森の破壊や、ダム建設などにより、サケの遡上が阻まれ、森の生態系にも悪影響を及ぼしている。生き物の循環環境がいかに大事なことが、自然に無駄なことなどない。

グリーンコープはこれだ

ずーっ

使いやすく、香りと風合いのよい

め香料入お洗濯のしゃぼん液体



ミヨシ石鹼(株)神戸工場
1996年の阪神淡路大震災で壊滅的な被害を受けた。しかし、確かな技術と人材は健在、見事に再建した



めお洗濯のしゃぼん液体（無香料・香料入り）を作っているミヨシ石鹼(株)（神戸市）を訪ね、代表取締役社長の三木晴雄さん、工場長の水野勝己さん、生産部技術課統括課長の中野秀樹さんに話を聞きました。



左から水野さん・三木さん・中野さん
「グリーンコープの商品に対する厳しい姿勢やせっけんへの思いは、私たちにとって、大きな支えであり励みです」と三木さん

液体せっけんは、水に溶けやすく、部分洗いに便利、軽い汚れに最適なめお洗濯のしゃぼん液体（無香料・香料入り）は、組合員に高い評価を得ています。

ミヨシ石鹼は、1921年創業。「真心をこめて石鹼に生きる」をモットーに約90年せっけんを作っています。ミヨシ油脂が同じ敷地内にあり、入荷したばかりの新鮮な原料油脂を直接ラインで工場に送ることができ、せっけんの製造にとても大きなメリットとなっています。

ミヨシ石鹼は、鮮度と質のよいなたね油に含まれる脂肪酸の一つ・洗浄力の強いオレイン酸と水酸化カリウム、精製水を原料に、液体せっけんを開発しました。「洗浄力と製品の安定性のバランスが取れる配合比率を何度も試作しながら追及しました」とせっけん作りに全力で打ち込む中野さん。努力の結晶として、毎日洗濯するという現在の生活スタイルにマッチした無添剤の液体せっけんが誕生しました。それが、2001年にグリーンコープブランドとなりました。また、2006年には組合員からの要望にこたえて、爽やかなグリーンフローラルの香りのめ香料入お洗濯のしゃぼん液体を開発。水野さんは「今後、めせっけんの可能性を幅広く追求したい」と話します。

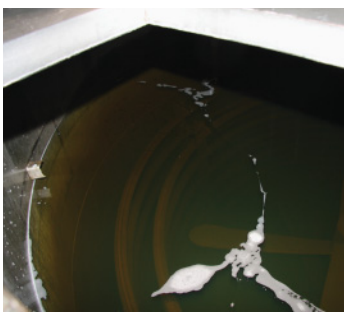
めお洗濯のしゃぼん液体を作るようす



①液体せっけんを造るタンク



②水酸化カリウムの水溶液にオレイン酸を入れ攪拌



③自然に泡が消え、液体せっけんとなる



水の硬度によるせっけんの溶け方実験

- ①蒸留水では透明
 - ②硬度が38ppm（水道水）では少し乳白色
 - ③硬度300ppmの水では真っ白になった
- ※水の硬度が上がるとせっけんが溶けにくくなるようすが分かった

すっきり汚れを落とすコツ

衣類の汚れ落ちをよくするためには

汗は水に溶けやすいので、サッと水洗いすると汚れ落ちがよい。洗濯機に洗濯物を入れすぎないことも大事

食器をすっきり洗うには

油や酢を使った食べものを入れた食器はボロ布や紙などで軽く拭いてから洗うとすっきり

洗髪は、十分すすぎを

せっけんシャンプーは、すすぎを十分してからリンスを使用すると、サラリと気持ちよく洗い上がる

重曹や酸素系漂白剤の活用

衣類の黄ばみや食器類の茶シブなどの汚れには酸素系漂白剤を、手の届かない配水管などの汚れは重曹を使う。酸素系の漂白剤は酸素の泡、重曹は炭酸ガスの泡によって、汚れが落ちる。使用する水の温度は40℃～60℃が適温

「せっけんは水に溶けやすいので、サッと水洗いすると汚れ落ちがよい。洗濯機に洗濯物を入れすぎないことも大事」

「油や酢を使った食べものを入れた食器はボロ布や紙などで軽く拭いてから洗うとすっきり」

「洗髪は、十分すすぎを」

「せっけんシャンプーは、すすぎを十分してからリンスを使用すると、サラリと気持ちよく洗い上がる」

第4分科会

大地と水を化学物質汚染から守る ～化学物質政策基本法の必要性～



中下裕子さん（弁護士 化学物質政策基本法制定ネットワーク共同代表）講演
「化学物質の中には何も規制されていないものが相当数あり、それが胎盤を通じ胎児に引き継がれてしまっている。それらを規制していく仕組みが必要。現状の縦割りの行政で法整備はできない。市民がきちんとした理念を掲げて行政に訴えていくことが重要だ」

人間も自然の一部であることを忘れてはならない。そのため、一人ひとりができることからやっていくことが大切だ。石けんの利用を広げることも、環境を守ることにつながる。



あやてるは
綾照葉会の第三者監査
(2007年8月16日実施)

グループ鹿鳴越の第三者監査
(2007年7月12日実施)



グリーンコープは設立当初から「食べもの安心・安全」を追求するという姿勢を貫いてきました。その理念の下、生産者やメーカーと生産・製造工程の約束を交わし、信頼関係を築きながら、一つひとつの商品を作ってきました。両方で培ってきた「安心・安全」とこのこだわりを目に見えるカタチにしたのがグリーンコープ商品生産・製造認証システム（以下、GC商品認証システム・図1参照）です。

2003年度に青果・米・たまごからスタートしたGC商品認証システムは、2005年度には加工食品・一般雑貨類などすべての商品が対象となり、グリーンコープで取り扱う全商品について安心・安全の仕組みが完成しつつあります。



グリーンコープ
商品生産・製造
認証システムから見る
「安心・安全」

すべてのグリーンコープ商品の「安心・安全」がより確かに

生産者・メーカーと取り組む
GC商品認証システム

青果・米

青果はすべて、米も8割以上が産直です。作物栽培計画書に基づいて、誰が、どこでどのような方法で栽培しているのかが明らかになっています。そこには、播種してから収穫するまでに使用するすべての農薬、肥料、資材などが記載されています。生産者とグリーンコープが毎年協議し決めた栽培方法に則ったものです。生産者は日々の農作業をそれぞれのフォームで記録しています。

最初の段階の監査は生産者自らが行う自主監査（第一者監査）です。まず、作物栽培計画書どおりに作っているかを、生産者自身が作業日誌や資材の購入記録・棚卸記録で確認し、自主確認報告書を作成します。そして、生産者グループで各自の報告書の内容を点検しあい、グループとしての自主確認報告書を作成します。作物栽培計画書どおり栽培されているか、出荷基準に基づき出荷されているかなど、約束どおりに行われているかをグループとして確認します。その上で改善すべき項目があればそれを明文化し、グリーンコープに報告します。

第二者監査は、自主確認報告

告が正しくなされているか、改善項目に自主的に取り組んでいるか、作物栽培計画書どおりに栽培されているかを、グリーンコープの担当者現地にての現地監査、もしくは書類で監査します。

たまご・精肉・牛乳

たまご・牛乳はすべて、精肉も8割以上が産直です。産直品は飼育基準書に基づいて、決められた飼料（たまご・若鶏・豚はグリーンコープ指定の飼料、牛はグリーンコープとの約束に基づいた飼料）で生産されています。

GC商品認証システムで

加工食品・一般雑貨類

つています。

グリーンコープの商品は、商品仕様書に基づいて製造されています。約束どおりの原料を使って、あらかじめ決められた方法で、いつでも安定した品質で生産できるようにメーカーとグリーンコープで取り決めているのが商品仕様書です。グリーンコープ独自の基準で作られている商品は約3000品目あります。図2の餃子の例のように、一次原料だけでなく、それを作るために使われた二次原料、三次原料にまで遡って確認できるようになっています。



査を実施しています。
さらに正確さと信頼を高めるために

図1 グリーンコープ商品生産・製造認証システム概念

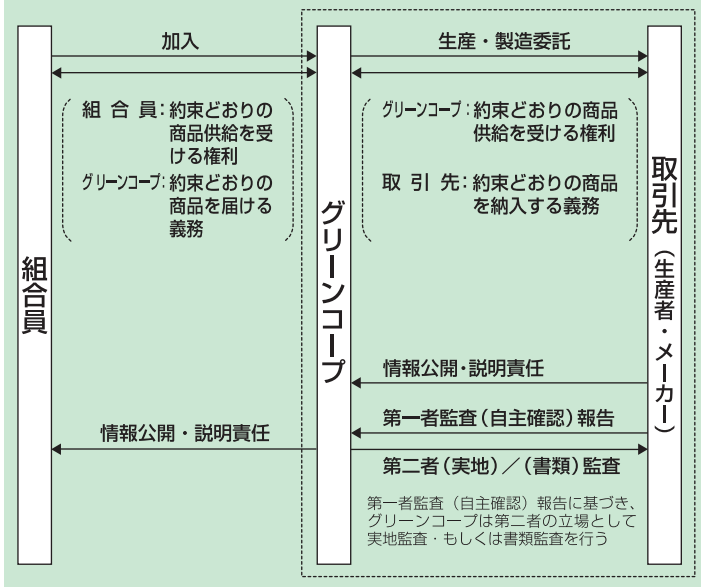
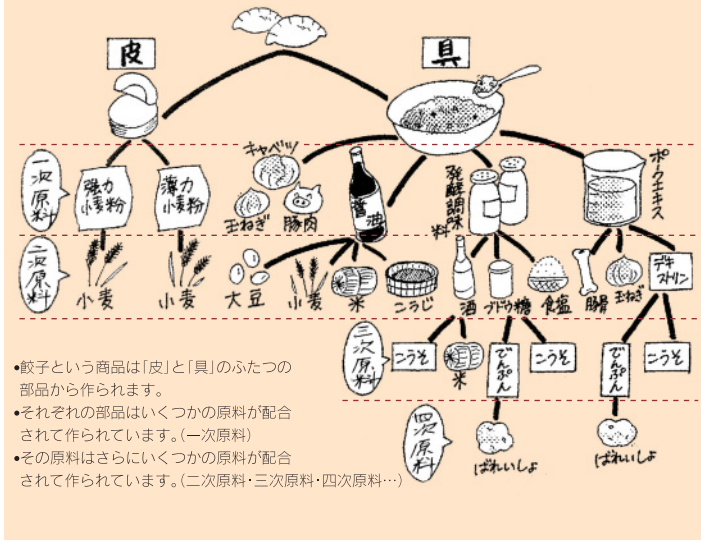


図2 原料についての概念（餃子の例）



餃子という商品は「皮」と「具」のふたつの部品から作られます。それぞれの部品はいくつかの原料が配合されて作られています。(一次原料)

その原料はさらにいくつかの原料が配合されて作られています。(二次原料・三次原料・四次原料...)

一般的には「トレーサビリティ」による商品の安全性評価が信頼への指針のように語られています。グリーンコープのGC商品認証システムこそ、人と人との関係性によって築き上げた真の意味での安心・安全の仕組みと言えます。GC商品認証システムのさらなる確立と運用によってグリーンコープの商品の精度と信頼性はより強固になっていくこととなります。

グリーンコープは 適切に 値上げした商品を 適切に 値下げします

グリーンコープは常に「適正な価格」を追求します



世界的な原油価格や穀物価格の高騰により、商品の市場価格は、大幅に値上がりしました。伴って、グリーンコープの商品も値上げをせざるを得ない状況がありました。その後、アメリカ発の経済恐慌の影響や原油価格の低下により、市場の商品価格は低下しています。

こうした状況を受けて、グリーンコープも値上げした商品の価格の見直しを行い、「適正な価格」を追求し、商品の値下げに取り組めます。

適正な価格

グリーンコープの価格の考え方は、組合員・メーカー、生産者が互いに納得できる価格を追求することです。組合員が安全な商品を安定して利用することができ、生産者・メーカーは安心して商品を再生産することができ、価格を、互いの信頼関係に基づき、取り決めています。

カタログ GREEN 5号
(4月20日～4月25日配布)の
大豆製品の値下げから
スタート

価格の見直しを行っています。

り袋大他4品、調理冷凍食(えびプリッとフライ他6品)、珈琲(有機栽培珈琲やわらかな味わい他4品)など。

「生命を育む食へもの」再生産のために

グリーンコープが独自に構築した安心・安全を確認する仕組みである「グリーンコープ商品生産・製造認証システム」は、生産者やメーカーの協力を得て管理しています。それによって、「いつ」「どこで」「何を」「どれだけ」「どのように」商品を生産しているのかなどが明確に分かります。それを可能にしているのは、長い間積み重ねてきた生産者やメーカーとの、互いに顔の見える関係です。その信頼関係がグリーンコープ商品の「安全と安心」を確立し、適正な価格を生み出してきました。

グリーンコープの価格の決め方

青果物では、年間の粗収

益を想定して、生産者と相談して決めていきます。畜産物は、飼料の価格が日常的に変化することから、飼料価格の変化に応じて、生産者と相談し価格を設定します。加工食品も原料や製造のための燃料コストなどの変動を反映させ、価格を設定します。

こうした価格設定のあり方によって、生産者は安定した収入を得ることができ、組合員は、安全な商品を安定的に利用できるということになります。

農業人口の高齢化、それに伴う後継者不足についても、農業が職業として成り立つ収入が確保できれば、解消できます。畜産業も同様です。安全で安心な食べものを安定して生産するためには、農業や漁業など第一次産業の抱える問題への対応も必要不可欠です。

すべての食べものが、経済効率や利益を優先するのではなく、生命の糧であるべき姿を、グリーンコープは追求します。

私の好きなグリーンコープ商品

おすすめします お洗濯のしゃぼん液体

私のお気に入りはお洗濯のしゃぼん液体です。だいたい前に一度試してみたいものの、泡が立たないので汚れが落ちないような気がしてすぐに止めてしまいました。そして以前の複合液体せっけんを使用してききました。ところが去年の暮れあたり、私の気持ちに変化が現れ、もう一度お洗濯のしゃぼん液体を使ってみようという気持ちになりました。洗いがとても柔らかく、タオルの水分吸収もよいようです。なんと洗った後、洗濯機の手洗いのコースで洗ってまたまた新発見です。去年まで、市販のおしゃれ着洗いで洗っていた時に比べてグリーンと垢抜けしました。これからは洗剤の泡に惑わされず、ずっとお洗濯のしゃぼん液体を使い続けていくつもりです。みなさんにも是非おすすめします。

三好 章子

投稿募集中

- 私の好きなグリーンコープ商品
- 400字程度 ●毎月月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

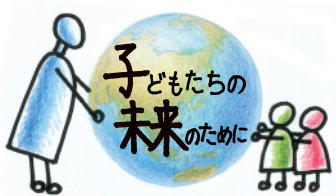
〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36
博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーション
ワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス
rikoho@greencoop.or.jp

商品の価格相談を行った取引先

①過去2年間で値上げを行った商品の取引先	143社
②過去2年間値上げはないが、価格を検討いただいた取引先	61社
合計	204社

相談の結果

①値下げできる商品	101商品
②値下げを検討中の商品	352商品
③値下げは難しいと回答があった商品	648商品
④取り扱いを止める又は休止する商品	15商品
合計	1116商品



No.11

玄海原発プルサーマル凍結を！

今年の10月にも佐賀県の玄海原発で、日本で初めてのプルサーマルが始まろうとしています。プルサーマルとは、原発の使用済み核燃料からプルトニウムとウランを取り出して作った「MOX燃料」を現在の原発で使うこと。プルサーマルは多くの問題点をかかえています。ウラン燃料だけのために設計された原発で、プルトニウムを含むMOX燃料を燃やすことは、大きな危険を伴います。ウランとプルトニウムでは核分裂の仕方が異なり、原子炉をコントロールする制御棒の効きが悪く事故の可能性が高くなります。プルトニウムを世界最大レベルで使用するため、事故が起きた時の被害は甚大になります。さらに、MOX燃料を使った後の使用済み核燃料の処理法については決まっています。現在の使用済み核燃料でさえ、処理の見通しは立っていないのに、プルトニウムを原料としているのでその処理はもっとやっかいです。数万年とも言われる管理が必要で、今以上に将来にわたって大きな負の遺産を子孫に負わせることになります。プルサーマルの運転を凍結し、今の原発と使用済み核燃料をどうするかを、みんなで考えていくことが大切です。

グリーンコープ共同体組織委員会

心をつなぐ、温かい手と手

JR広島駅から歩いてすぐのマンションの一室に、特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会（以下広通研）はある。

手話通訳問題研究会は、47都道府県のすべてに支部がある全国組織で、広通研はその広島支部だ。聴覚障害者福祉と手話通訳者の社会的地位の向上をめざして、手話や手話通訳、聴覚障害者問題についての研究・運動を行っている。

4月の定例会取材し、会員のみなさんと事務局の河合知義さん（グリーンコープ生協ひろしま組合員）に話を聞いた。

特定非営利活動法人 広島県手話通訳問題研究会

広 通研の事務所は中古マンションの一室。

今年1月購入して移転したばかりだ。改装の際、間仕切りをすべて取り払った部屋は、大きな窓から光が差し込む明るくて落ち着く空間だ。

会員約300人。手話通訳を職業とする人や、検定試験を目標に手話を学ぶ人などさまざまな人がいる。そのうち毎月30〜40人が事務局を訪れ活動している。会員は、医療関係を中心に活動する班、手話の基本を学ぶ手話班、法律と手話を学ぶ会などに属して活動をしている。

また、県内には地域ごとに支部があり、6つの支部はそれぞれ独自の活動をしている。会の活動方針などはその代表が集まって決める。定例で講演会や研究会も開催している。

この日は手話班の定例会。参加したメンバー7人は、DVDを見ながら、手話を学んでいる。自称「初心者」の会だ。

手話との出会い

「手話は耳の不自由な人の言語手段」というイメージがある。しかし、手話を始めるきっかけや目的は人それぞれだ。

賀儀山さんは手話歴5年。脳梗塞を患い、声がまったく出せなくなったのが手話を始めたきっかけだ。「手話もひとつのサインになれば」と思っただけでした。



▲福祉活動組合員基金の助成を受けて取り組んだ身体表現セミナー



パントマイムのパフォーマンスに会場は▶開放的な雰囲気になった

今では手も動くし、声もかなり出るようになりました。手話の効用かなって思っています」と穏やかに話す。

事務局の河合さんは、大学の友人に誘われてなんとなく講習会に行ったのがきっかけで、手話の世界に足を踏み入れ40年余りになる。

「その友人はとくに手話から足を洗ってるといってどね」。そう言うと、その場に笑いが起こった。真剣に学ぶが、深刻ではない。動機も年齢も職業も性別も違う人たちが手話を介してつながる。笑い声の絶えない時間が過ぎていく。

手話の広がり

ここで学んだことはそれぞれの形で生かされる。地域の手話サークルでのボランティア活動、手話通訳に出向くなど。

国体で広島を訪れた秋篠宮妃が、手話で話す姿に触発されたという熊本さんは15年のキャリア。毎週土曜日は平和記念資料館のピースボランティアとして手話通訳を務める。「外国人や聞こえない人との交流が楽しい」と笑顔をはこぼせた。手話通訳にかかわること、普段の生活で見落としていたことにも気づき、視野が広がる。

阪神淡路大震災の後、避難場所や支援などの情報が得られなくて困ったのが、日本語の分からない外国人、そして耳の不自由な人たちだったと言われている。しかし、そのような特別な場面だけでなく、「手話」をしていると人に寄り添い、困ったことに気づくセンサーが敏感になるのだという。「聞こえる僕らにとっては

あたりまえのことが、そうではないことに気付かれます。しかし、気付かずに世話焼きになりすぎてしまうので、そうならないようにしています。私の妻は聾なので、時々こんなこと通訳していいの？って思うこともありますよ。でも妻は伝えて！と言う。困るので、妻の通訳は引き受けないようにしてるんです」と笑顔で話す河合さんは、行政からの要請で時々手話通訳をしている。

心を開くきっかけ

手話通訳問題研究会には「聾者への理解」「聾者と共に」という理念があるが、このメンバーは、「聾者のため」という義務感や使命感だけで動き回っているわけではない。

河合さんは手話をきっかけに、地域に暮らす外国人をサポートするコミュニケーション通訳や医療通訳にもかわるようになった。ネグロスバナナを箱買いしていた

ほとんどのバナナ好きで、定年退職した昨年はグリーンコープのネグロス組合員ツアーにも参加した。このような人生の大きな契機を河合さんは大切にしてきた。この春からは精神病院という新たな職場へもチャレンジする。

声を出して話せない自閉症の子が、手話でなら話せることがある。「手話は心を開くきっかけにもなるんじゃないかな」。熊本さんが明るく言う。「誰もが手話をできるようになる必要はありません。気持ち伝えるのは身振り手振りでもいい。場合によっては紙に書けばいい。手話に限らず大切なことは、心の垣根を取り払って、相手のことを分かろうと心を砕くことなんですね」。

広通研はこれからも手話をとおして、たくさんの人たちの手と手をつないでいく。

※広通研は、2008年度グリーンコープ生協ひろしま福祉活動組合員基金の助成を受けている

いま地域を考える

No.190



みんなで指文字「よ・ろ・し・く・ね」。左から 賀儀山さん、河合さん、熊本さん



手話を見ながら、動作をまね、その意味を読み解いていく